

備北商工会管内の景況報告書

(平成28年4月～平成29年12月)

平成30年2月

備北商工会

1. 備北商工会管内の景況推移（全体：前年同期比較）

		28年4～6月	28年7～9月	28年10～12月	29年1～3月	29年4～6月	29年7～9月	29年10～12月
売上高	製造・建設	-30.0%	-30.0%	-10.0%	-10.0%	-20.0%	-30.0%	30.0%
	小売・サービス	-35.0%	-47.4%	-63.2%	-50.0%	-45.0%	-55.0%	-60.0%
売上単価	製造・建設	-40.0%	-50.0%	0.0%	-22.2%	-30.0%	-40.0%	0.0%
	小売・サービス	-10.0%	-21.1%	-5.3%	-15.0%	0.0%	-20.0%	-26.3%
仕入単価	製造・建設	0.0%	11.1%	0.0%	-11.1%	-40.0%	0.0%	-55.6%
	小売・サービス	-45.0%	-31.6%	-16.7%	-5.0%	-45.0%	-35.0%	-45.0%
在庫	製造・建設	-40.0%	-50.0%	-33.3%	-33.3%	-20.0%	-40.0%	-10.0%
	小売・サービス	-15.8%	-15.8%	-16.7%	-5.0%	-11.1%	-30.0%	-33.3%
資金繰り	製造・建設	-30.0%	-60.0%	-33.3%	-10.0%	-20.0%	0.0%	20.0%
	小売・サービス	-36.8%	-38.9%	-26.3%	-30.0%	-25.0%	-50.0%	-42.1%
借入難度	製造・建設	-10.0%	-10.0%	0.0%	0.0%	10.0%	20.0%	11.1%
	小売・サービス	-16.7%	-17.6%	0.0%	-5.3%	-6.3%	-11.1%	-12.5%
収益状況 (経常利益)	製造・建設	-50.0%	-50.0%	-50.0%	-30.0%	-30.0%	-10.0%	30.0%
	小売・サービス	-55.0%	-50.0%	-47.4%	-57.9%	-50.0%	-47.4%	-50.0%
貴社の業況 判断	製造・建設	-60.0%	-30.0%	-20.0%	0.0%	-20.0%	-10.0%	0.0%
	小売・サービス	-70.0%	-65.0%	-47.4%	-52.6%	-50.0%	-42.1%	-47.4%
雇用人員 (人手)	製造・建設	-50.0%	-50.0%	-66.7%	-66.7%	-70.0%	-60.0%	-50.0%
	小売・サービス	-15.8%	-15.8%	-16.7%	-17.6%	-15.0%	-11.1%	-22.2%

※「D.I.」(ディー・アイ)とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、企業の業況感や設備、雇用人員の過不足などの各種判断を指数化したもの。

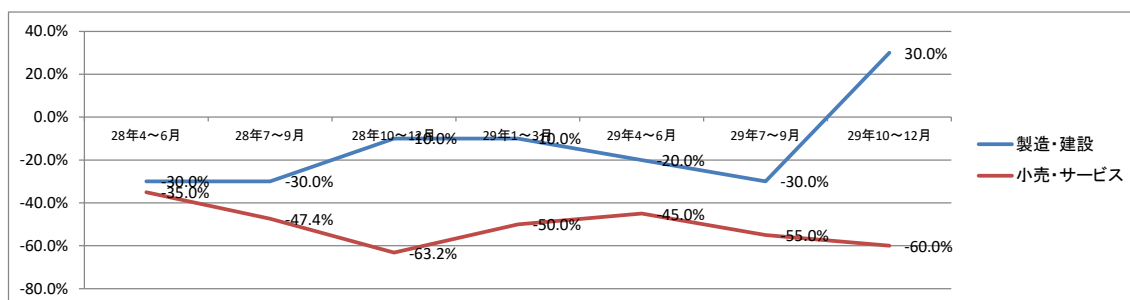
D.I. = (増加・好転等の回答社数構成百分比) - (悪化・減少等の回答社数構成百分比)

2. 備北商工会管内の景況推移（項目別：前年同期比較）

（1）売上に関する項目

売上高は、製造・建設に比べ、小売・サービスが一貫して厳しい状況が続いている。直近で製造・建設が大きく改善した。売上原価は上下変動を繰り返しており、特に製造・建設の方が上下幅は大きい傾向にある。

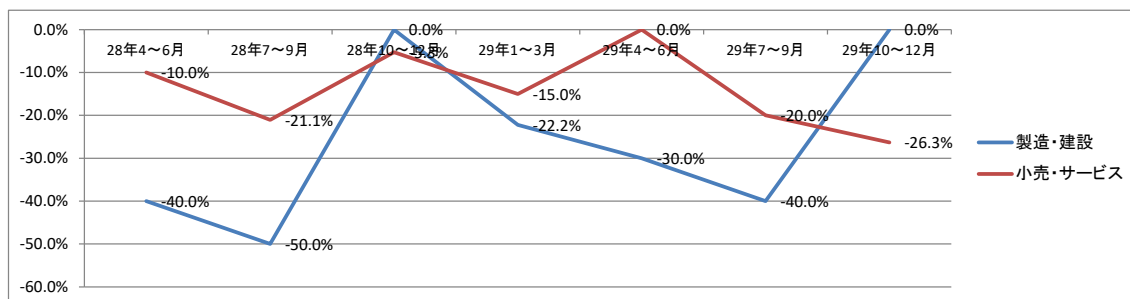
①売上高



売上高(増加－減少)

	28年4～6月	28年7～9月	28年10～12月	29年1～3月	29年4～6月	29年7～9月	29年10～12月
製造・建設	-30.0%	-30.0%	-10.0%	-10.0%	-20.0%	-30.0%	30.0%
小売・サービス	-35.0%	-47.4%	-63.2%	-50.0%	-45.0%	-55.0%	-60.0%

②売上単価



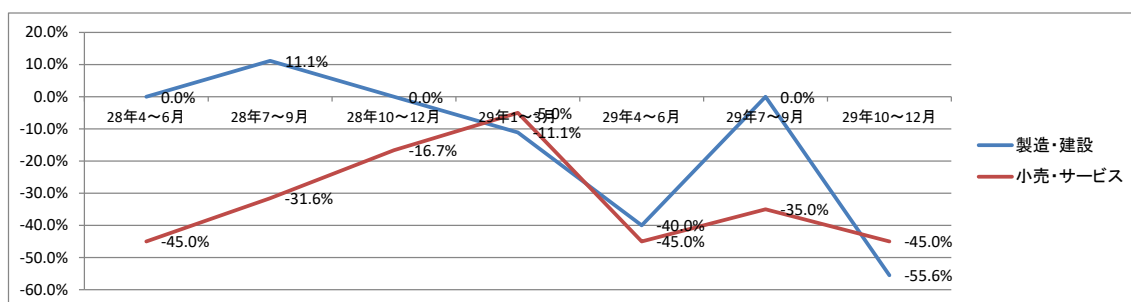
売上単価(上昇－低下)

	28年4～6月	28年7～9月	28年10～12月	29年1～3月	29年4～6月	29年7～9月	29年10～12月
製造・建設	-40.0%	-50.0%	0.0%	-22.2%	-30.0%	-40.0%	0.0%
小売・サービス	-10.0%	-21.1%	-5.3%	-15.0%	0.0%	-20.0%	-26.3%

(2) 費用に関する項目

仕入単価は、平成28年から平成29年1～3月にかけて回復基調にあったが、平成29年4～6月に大きく後退した。その後、再び回復基調に転じたが、直近では大きく後退している。両業種ともに近年では最も悪化している状況にある。在庫については平成29年7～9月までは製造・建設が概ね上回っていたが、直近で逆転している。

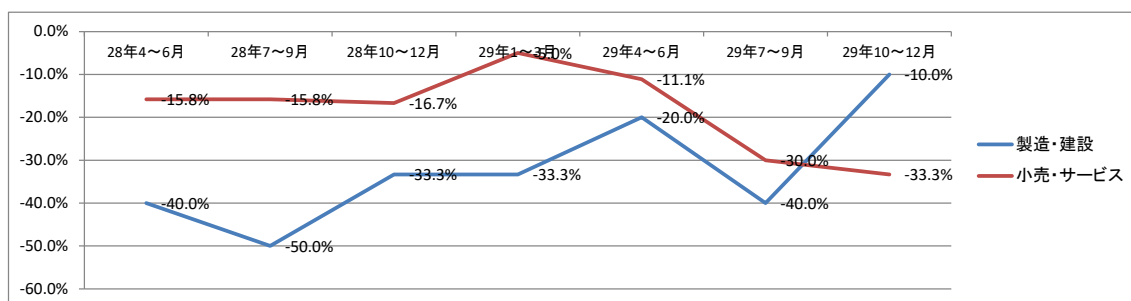
①仕入単価



仕入単価(低下一上昇)

	28年4～6月	28年7～9月	28年10～12月	29年1～3月	29年4～6月	29年7～9月	29年10～12月
製造・建設	0.0%	11.1%	0.0%	-11.1%	-40.0%	0.0%	-55.6%
小売・サービス	-45.0%	-31.6%	-16.7%	-5.0%	-45.0%	-35.0%	-45.0%

②在庫

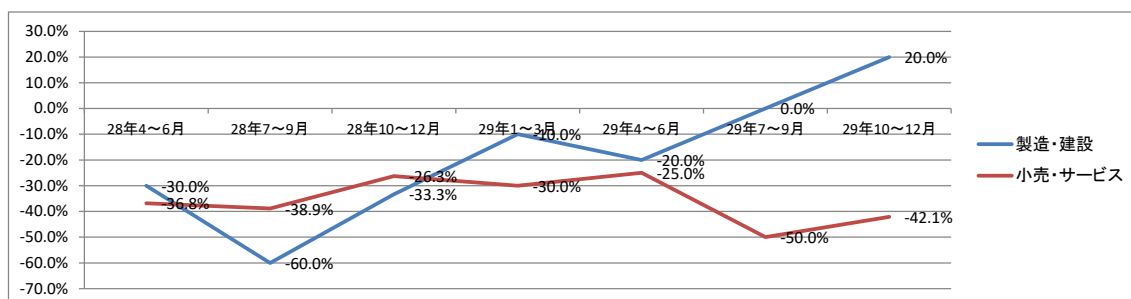


	28年4～6月	28年7～9月	28年10～12月	29年1～3月	29年4～6月	29年7～9月	29年10～12月
製造・建設	-40.0%	-50.0%	-33.3%	-33.3%	-20.0%	-40.0%	-10.0%
小売・サービス	-15.8%	-15.8%	-16.7%	-5.0%	-11.1%	-30.0%	-33.3%

(3) 資金繰り・借入に関する項目

資金繰りは、製造・建設では平成29年1～3月以降回復基調にあり、借入難易度も同様の傾向となっている。小売・サービスは総じて前年同期を下回っており、厳しい状況が続いている。

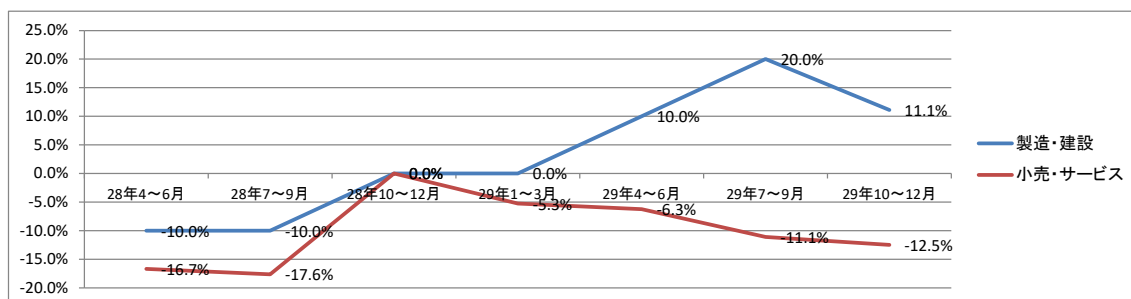
① 資金繰り



資金繰り(好転－悪化)

	28年4～6月	28年7～9月	28年10～12月	29年1～3月	29年4～6月	29年7～9月	29年10～12月
製造・建設	-30.0%	-60.0%	-33.3%	-10.0%	-20.0%	0.0%	20.0%
小売・サービス	-36.8%	-38.9%	-26.3%	-30.0%	-25.0%	-50.0%	-42.1%

② 借入



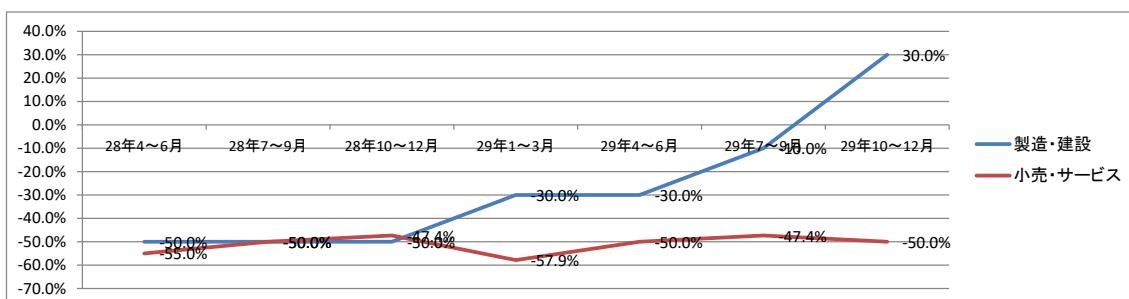
借入難度(容易－困難)

	28年4～6月	28年7～9月	28年10～12月	29年1～3月	29年4～6月	29年7～9月	29年10～12月
製造・建設	-10.0%	-10.0%	0.0%	0.0%	10.0%	20.0%	11.1%
小売・サービス	-16.7%	-17.6%	0.0%	-5.3%	-6.3%	-11.1%	-12.5%

(4) 収益・業況に関する項目

収益状況は、製造・建設では平成 29 年 7～9 月には前年同期近くに収益が回復基調にあり、直近では前年同期を大きく上回った。業績判断も概ね同様の動きにある。小売・サービスでは総じて厳しい状況が続いており、直近では両者の差が大きく開いている。

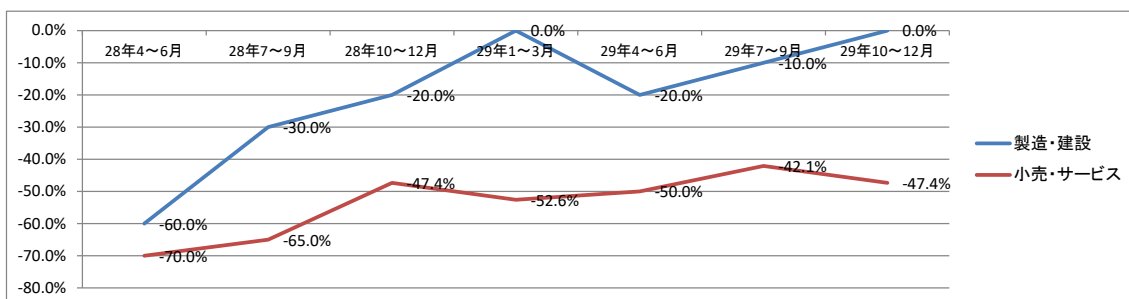
①収益状況（経常利益）



収益状況(経常利益) (好転-悪化)

	28年4～6月	28年7～9月	28年10～12月	29年1～3月	29年4～6月	29年7～9月	29年10～12月
製造・建設	-50.0%	-50.0%	-50.0%	-30.0%	-30.0%	-10.0%	30.0%
小売・サービス	-55.0%	-50.0%	-47.4%	-57.9%	-50.0%	-47.4%	-50.0%

②業況判断

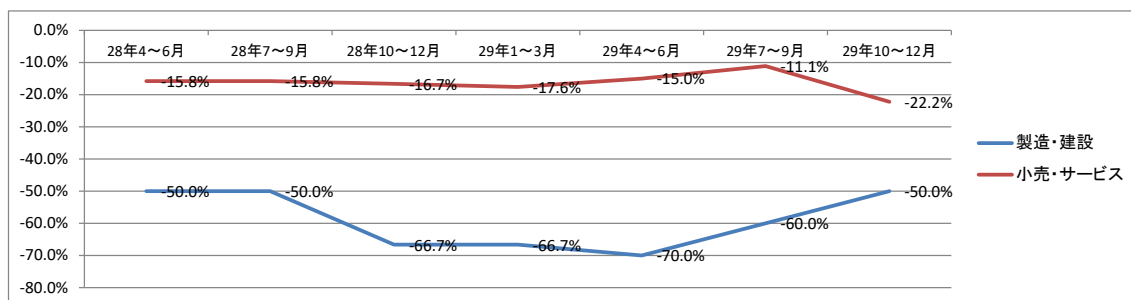


貴社の業況判断(好転-悪化)

	28年4～6月	28年7～9月	28年10～12月	29年1～3月	29年4～6月	29年7～9月	29年10～12月
製造・建設	-60.0%	-30.0%	-20.0%	0.0%	-20.0%	-10.0%	0.0%
小売・サービス	-70.0%	-65.0%	-47.4%	-52.6%	-50.0%	-42.1%	-47.4%

(5) 雇用に関する項目

製造・建設の人手不足は、若干の持ち直しは見られるもの一貫して厳しい状況にある。
小売・サービスにおいても不足感が鮮明になりつつある。



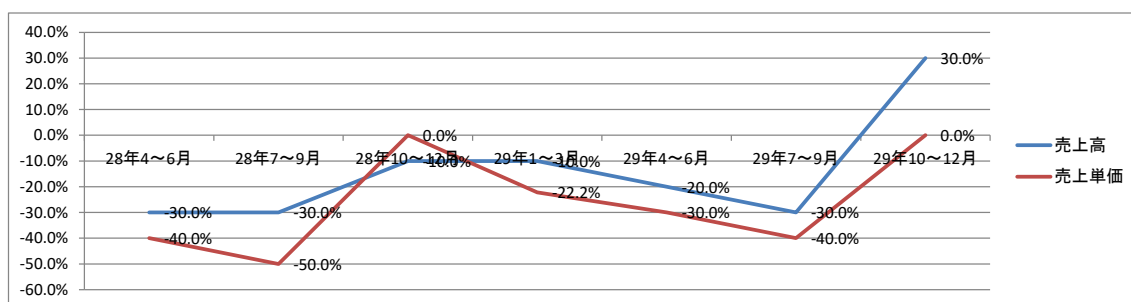
雇用人員(人手)(過剰-不足)

	28年4~6月	28年7~9月	28年10~12月	29年1~3月	29年4~6月	29年7~9月	29年10~12月
製造・建設	-50.0%	-50.0%	-66.7%	-66.7%	-70.0%	-60.0%	-50.0%
小売・サービス	-15.8%	-15.8%	-16.7%	-17.6%	-15.0%	-11.1%	-22.2%

3. 備北商工会管内の景況推移（製造・建設：前年同期比較）

（1）売上に関する項目

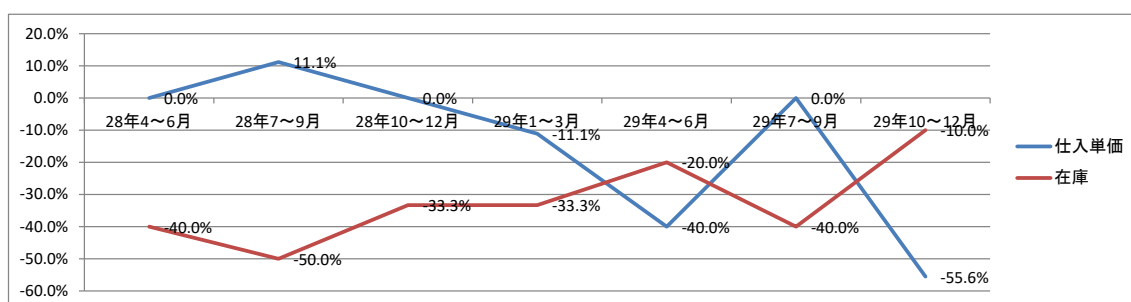
売上高は、平成28年10月～12月に前年並みに回復しており、その後若干悪化したものの、直近では大きく改善した。売上単価も概ね売上高と同傾向での回復にあることから、売上高の回復は売上単価の改善によるところが大きいと推察される。



	28年4～6月	28年7～9月	28年10～12月	29年1～3月	29年4～6月	29年7～9月	29年10～12月
売上高	-30.0%	-30.0%	-10.0%	-10.0%	-20.0%	-30.0%	30.0%
売上単価	-40.0%	-50.0%	0.0%	-22.2%	-30.0%	-40.0%	0.0%

（2）費用に関する項目

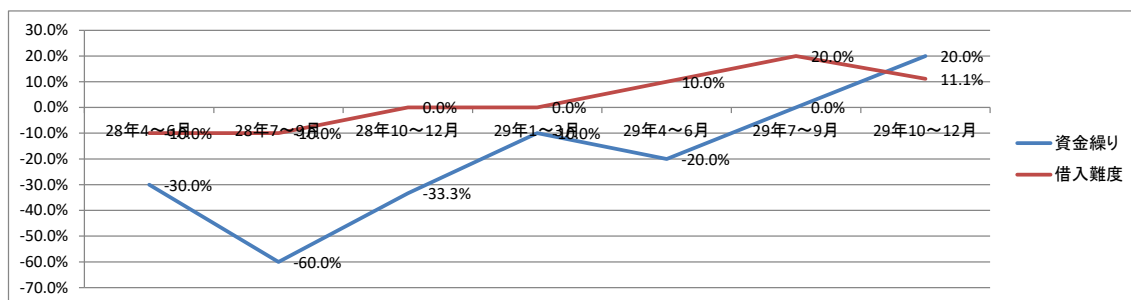
仕入単価は改善基調から悪化、そして改善を繰り返す形となっているが、直近では大きく悪化した。在庫は前年並みには及ばないものの、総じて回復基調にある。



	28年4～6月	28年7～9月	28年10～12月	29年1～3月	29年4～6月	29年7～9月	29年10～12月
仕入単価	0.0%	11.1%	0.0%	-11.1%	-40.0%	0.0%	-55.6%
在庫	-40.0%	-50.0%	-33.3%	-33.3%	-20.0%	-40.0%	-10.0%

(3) 資金繰り・借入に関する項目

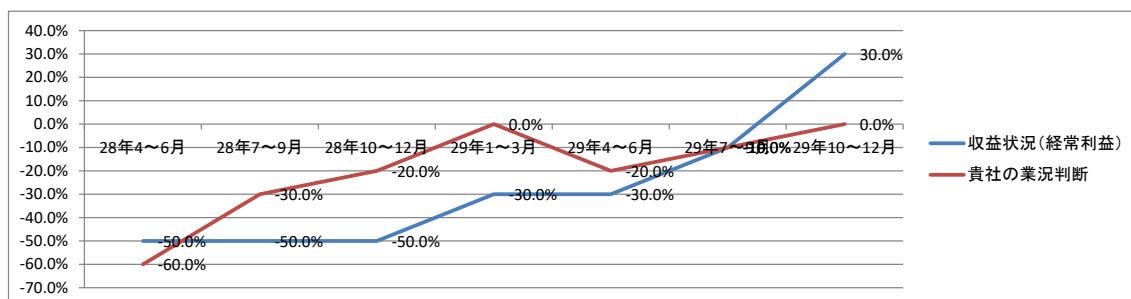
資金繰り・借入難易度は回復基調にあり、特に借入難易度は、平成 29 年 7～9 月以降、前年同期を上回っている。



	28年4～6月	28年7～9月	28年10～12月	29年1～3月	29年4～6月	29年7～9月	29年10～12月
資金繰り	-30.0%	-60.0%	-33.3%	-10.0%	-20.0%	0.0%	20.0%
借入難易度	-10.0%	-10.0%	0.0%	0.0%	10.0%	20.0%	11.1%

(4) 収益・業況に関する項目

収益状況は、極めて厳しい状況から、回復基調にあり、平成 29 年 1～3 月以降はほぼ前年同期水準まで回復、特に直近で大きく改善した。業績判断も総じて上向きの状況にある。



	28年4～6月	28年7～9月	28年10～12月	29年1～3月	29年4～6月	29年7～9月	29年10～12月
収益状況(経常利益)	-50.0%	-50.0%	-50.0%	-30.0%	-30.0%	-10.0%	30.0%
貴社の業況判断	-60.0%	-30.0%	-20.0%	0.0%	-20.0%	-10.0%	0.0%

(5) 貴社の業績判断に与える各項目の相関関係 (参考)

貴社の業績判断と、各項目との相関関係を、Microsoft Excel の CORREL 関数を用いて分析したところ、売上単価と借入難易度との相関関係が強い結果となった。

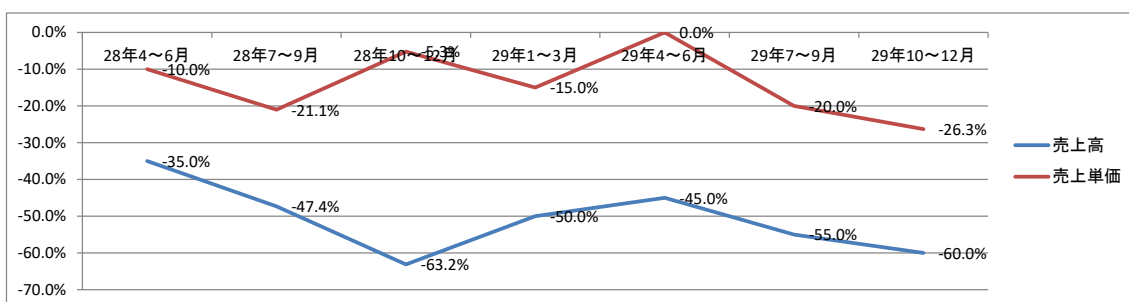
	28年4~6月	28年7~9月	28年10~12月	29年1~3月	29年4~6月	29年7~9月	29年10~12月	相関係数
貴社の業績判断	-60.0%	-30.0%	-20.0%	0.0%	-20.0%	-10.0%	0.0%	
売上高	-30.0%	-30.0%	-10.0%	-10.0%	-20.0%	-30.0%	30.0%	0.60
売上単価	-40.0%	-50.0%	0.0%	-22.2%	-30.0%	-40.0%	0.0%	0.83
仕入単価	0.0%	11.1%	0.0%	-11.1%	-40.0%	0.0%	-55.6%	-0.55
在庫	-40.0%	-50.0%	-33.3%	-33.3%	-20.0%	-40.0%	-10.0%	-0.97
資金繰り	-30.0%	-60.0%	-33.3%	-10.0%	-20.0%	0.0%	20.0%	0.74
借入難度	-10.0%	-10.0%	0.0%	0.0%	10.0%	20.0%	11.1%	0.76
収益状況(経常利益)	-50.0%	-50.0%	-50.0%	-30.0%	-30.0%	-10.0%	30.0%	0.71
雇用人員(人手)	-50.0%	-50.0%	-66.7%	-66.7%	-70.0%	-60.0%	-50.0%	0.20

※相関係数とは、2種類のデータ(「貴社の業績判断」と他の項目)の関係を示す指標

4. 備北商工会管内の景況推移（小売・サービス：前年同期比較）

（1）売上に関する項目

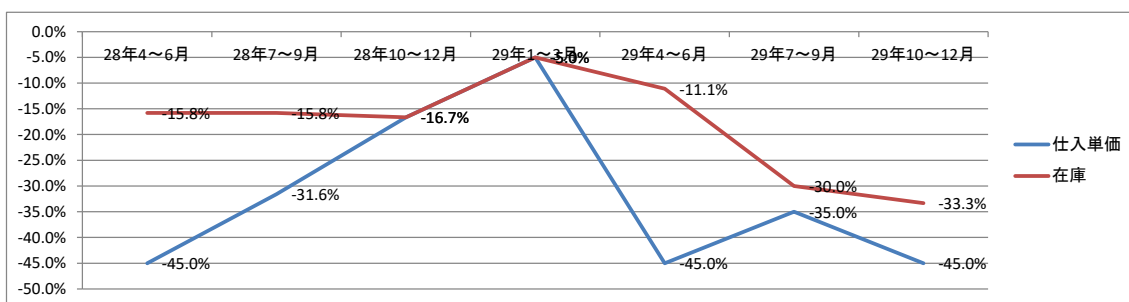
売上高の大幅な悪化が続いているが、平成29年1～3月までは売上単価は総じて前年より若干低い状況に留まっていた。この時期までは、売上高悪化の要因として、客数減少が大きく影響していると推察されたが、それ以降は売上単価も大きく悪化している。



	28年4～6月	28年7～9月	28年10～12月	29年1～3月	29年4～6月	29年7～9月	29年10～12月
売上高	-35.0%	-47.4%	-63.2%	-50.0%	-45.0%	-55.0%	-60.0%
売上単価	-10.0%	-21.1%	-5.3%	-15.0%	0.0%	-20.0%	-26.3%

（2）費用に関する項目

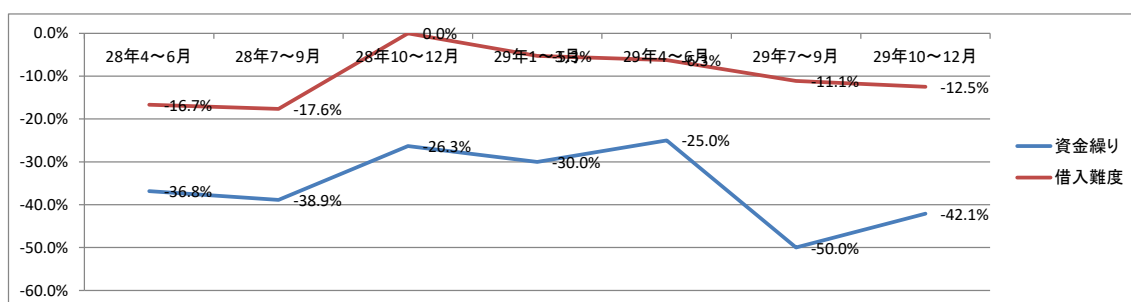
仕入単価は、改善基調から悪化、そして改善を繰り返す形となっており、直近では近年最低まで悪化している。在庫は、前年並みには及ばないものの回復基調にあったが、平成29年7～9月以降大きく悪化している。



	28年4～6月	28年7～9月	28年10～12月	29年1～3月	29年4～6月	29年7～9月	29年10～12月
仕入単価	-45.0%	-31.6%	-16.7%	-5.0%	-45.0%	-35.0%	-45.0%
在庫	-15.8%	-15.8%	-16.7%	-5.0%	-11.1%	-30.0%	-33.3%

(3) 資金繰り・借入に関する項目

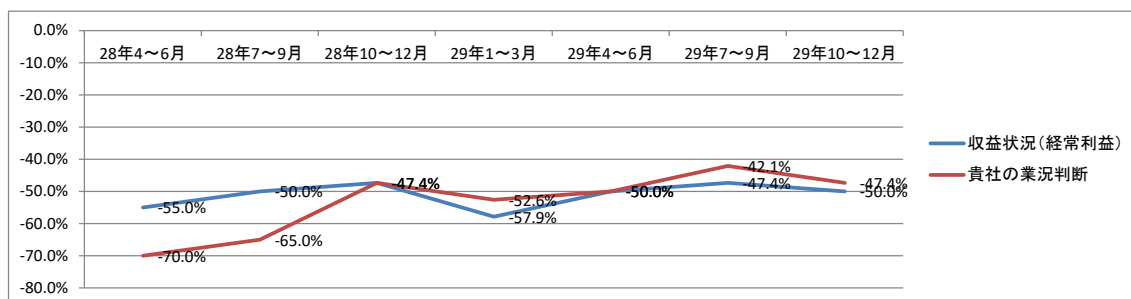
資金繰りは、平成28年10～12月まで回復基調にあったが、平成29年7～9月で大きく悪化し、大幅な回復には至っていない。借入難易度は、総じて前年比割れの横ばいの状況が続いている。



	28年4～6月	28年7～9月	28年10～12月	29年1～3月	29年4～6月	29年7～9月	29年10～12月
資金繰り	-36.8%	-38.9%	-26.3%	-30.0%	-25.0%	-50.0%	-42.1%
借入難易度	-16.7%	-17.6%	0.0%	-5.3%	-6.3%	-11.1%	-12.5%

(4) 収益・業況に関する項目

収益状況、業況判断ともに極めて厳しい状況にある。



	28年4～6月	28年7～9月	28年10～12月	29年1～3月	29年4～6月	29年7～9月	29年10～12月
収益状況(経常利益)	-55.0%	-50.0%	-47.4%	-57.9%	-50.0%	-47.4%	-50.0%
貴社の業況判断	-70.0%	-65.0%	-47.4%	-52.6%	-50.0%	-42.1%	-47.4%

(5) 貴社の業績判断に与える各項目の相関関係 (参考)

貴社の業績判断と、各項目との相関関係を、Microsoft Excel の CORREL 関数を用いて分析したところ、資金繰りと借入難易度との相関関係が強い結果となった。

小売・サービス

	28年4~6月	28年7~9月	28年10~12月	29年1~3月	29年4~6月	29年7~9月	29年10~12月	相関係数
貴社の業績判断	-70.0%	-65.0%	-47.4%	-52.6%	-50.0%	-42.1%	-47.4%	
売上高	-35.0%	-47.4%	-63.2%	-50.0%	-45.0%	-55.0%	-60.0%	-0.78
売上単価	-10.0%	-21.1%	-5.3%	-15.0%	0.0%	-20.0%	-26.3%	0.28
仕入単価	-45.0%	-31.6%	-16.7%	-5.0%	-45.0%	-35.0%	-45.0%	0.05
在庫	-15.8%	-15.8%	-16.7%	-5.0%	-11.1%	-30.0%	-33.3%	0.52
資金繰り	-36.8%	-38.9%	-26.3%	-30.0%	-25.0%	-50.0%	-42.1%	0.77
借入難度	-16.7%	-17.6%	0.0%	-5.3%	-6.3%	-11.1%	-12.5%	0.65
収益状況(経常利益)	-55.0%	-50.0%	-47.4%	-57.9%	-50.0%	-47.4%	-50.0%	0.13
雇用人員(人手)	-15.8%	-15.8%	-16.7%	-17.6%	-15.0%	-11.1%	-22.2%	0.26

※相関係数とは、2種類のデータ(「貴社の業績判断」と他の項目)の関係を示す指標